

[専門教育科目/看護の展開/老年看護学]

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
老年看護学実習Ⅱ (病棟)	NSP34_004	必修	2	3	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
佐野 宏一朗 他	414	k.sano	金曜日 9:00～10:30		
授業の目的・概要	1) 病院に入院している老年期にある対象者や家族の健康問題と個々の生活背景などの個別性を含めて総合的に把握した看護を実践することを目的とする。 2) 様々な疾患・障害から生じる生活機能障害に対して看護過程を展開し、生活の質を維持・向上を支援する看護について理解を深める。 3) Teams を活用し、高齢者の医療を支える様々な専門職の連携や、地域と病院の連携について理解を深める。				
学習上の助言	老年看護学領域で学んだ内容をよく復習した上で実習に臨むこと。高齢者の加齢による心身機能の変化や疾患の特徴を押えた上で、生活の質を維持・向上させていくために必要な援助の方法について十分に学習しておくこと。				
教科書	生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図(第3版)/山田律子/医学書院/2016				
参考書	特になし				
学生が達成すべき行動目標 関連卒業認定・学位授与方針					
①	老年期にある疾患を抱えた対象の身体的、心理的、社会的側面を理解する。			NS(1)～(4)、(5)	
②	高齢者に特有な健康障害について理解する。			NS(1)～(4)、(5)	
③	高齢者のその人らしさや強みを活かした看護援助方法を考え、援助を実施・評価できる。			NS(1)～(5)	
④	高齢者への看護において必要な保健医療福祉サービスの連携と看護職の役割を考える。			NS(1)～(5)	
⑤	高齢者のその人らしさや強みを活かした看護についてまとめることができる。			NS(1)～(5)	
授 業 計 画					
1. 実習の時期と期間 3年次後期 各グループ約7名で各2週間実施する。					
2. 実習場所 大学内および Teams の活用					
3. オリエンテーション 実習1日目に具体的な実習内容、留意事項などについて説明をする。					
4. 具体的な実習方法 1) 実習は学内での情報収集、シミュレーション実習を中心に行う。また Teams を活用した学習、看護過程展開を行う。 2) 実習のスケジュール:1 週目の初日にオリエンテーションを実施し、詳細を説明する。詳しくは実習要項を参照すること。					
5. 単位の認定及び評価 出席状況、実習記録、レポート等による総合評価					
6. 実習記録および課題レポートの提出 (実習要項参照)					

[専門教育科目/看護の展開/老年看護学]

学習課題・学習時間 (時間)							
老年看護学領域で学習した内容全般を実習前に復習すること。 実習中の疑問や対象者への援助に必要な知識・技術は各自で自己学習すると共に、Teams を活用して教員に質問し、必ず疑問を解決すること。 必要時間: 30 時間							
達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		0	70	10	10	10	100
総合力指標	知識・技術力	0	20	2	2	0	24
	思考・推論・創造する力	0	30	2	2	0	34
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	2	0	2
	発表・表現伝達する力	0	10	1	0	0	11
	コミュニケーション力	0	0	2	0	5	7
	取組みの姿勢・意欲	0	0	2	2	0	4
問題を発見・解決する力		0	10	1	2	5	18
評価のポイント							
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点				フィードバックの方法	
試験	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①	✓	実習記録および最終レポートの内容等を、実習指導教員が評価指標の割合で評価する。レポートのテーマ・字数等の様式については、オリエンテーション時に説明する。				実習記録の内容について、担当教員よりコメントを返す。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
成果発表	①	✓	学生主体でカンファレンスを実施するとともに、学生間で学びを共有する。学生は積極的に質疑応答に参加すること。				
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
ポートフォリオ	①	✓	事前学習や実習記録、日々の行動計画や実習の振り返りの記録などから学習に対する姿勢を評価する。				実習中に記録を提出し、その都度教員からコメントを返す。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
その他	①		実習中は倫理的態度に基づいて行動する(言葉づかい、他者の話を聴く姿勢、報告・連絡等)。				その都度指導を行う。
	②						
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
備 考							
担当教員:佐野 宏一朗 山崎 さやか							
実習前から自己の健康管理を行い、実習に臨むこと。大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を遵守すること。 問題がある場合は面接授業の参加を認めません。体調が不良の時には、実習指導教員に相談するなどの適切な対応をすること。 Teams を使った同時双方向型授業の際には、授業時は通信容量が無制限の Wi-Fi 環境を推奨します。 今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更がある可能性があります 老年看護学実習Ⅱ実習要項を前もって配布するので、よく読んでおくこと。							